

[別記様式第 13 号]

備前・瀬戸内圏域(岡山県) 総合水産基盤整備事業計画

1 圏域の概要

(1) 水産業の概要

① 圏域内に位置する市町村および漁業協同組合の概要

備前・瀬戸内圏域は、備前市と瀬戸内市の2市からなる圏域であり、漁船漁業やカキ養殖業等の漁業が営まれている。各市とも水産業は主要産業の一つであり、備前市では市総合計画において「里海づくりを柱とした水産業の振興」として、また、瀬戸内市では市総合計画において「水産業に活力が生まれるまち」として水産業の振興を図ることとしている。

関係漁業協同組合は、平成14年度には6漁協あったが、合併を経て、現在は日生町漁協、伊里漁協、邑久町漁協、牛窓町漁協の4漁協となっている。

② 主要漁業種類、主要魚種の生産量、資源量の状況

備前・瀬戸内圏域は、県内で最もカキ養殖業が盛んな地域であり、県下のカキ養殖生産量の約9割を占めている。カキ生産量については、平成26年度は16,050tであったが、平成30年度は15,497tとなっている(農林水産統計)。

漁船漁業では、小型機船底びき網漁業、船びき網漁業、小型定置網漁業が行われており、サワラやマダイ、ゲタ、ガラエビ等の多種多様な魚種が漁獲されている。生産量については、漁船漁業の生産量が平成26年度は1,457tであったが、平成30年度は1,272tとやや減少している(農林水産統計)。

資源管理は、小型機船底びき網漁業や小型定置網漁業で自主的な網目の制限や小型魚の再放流サイズ決定等に取り組んでいる。また、漁獲された抱卵ガザミの再放流やサワラの受精卵放流、ガザミ、クルマエビ、ヨシエビ等の種苗放流等、様々な活動に取り組んでいる。圏域内には中間育成施設を有し、放流魚の中間育成を行い放流効果の向上に努めている。

③ 水産物の流通・加工の状況

養殖カキについては、各漁港や港湾にある加工処理施設で殻剥き等の処理が行われている。頭島漁港、大多府漁港、東備港、牛窓港で殻剥き等が行われたカキは、東備港にある岡山県漁業協同組合連合会の加工流通センターに集約され、袋詰め等の加工を行い、県内外に出荷されている。また、穂浪漁港と虫明漁港で殻剥き等が行われたカキは、各漁港の産地市場に集約してセリや相対取引が行われ、県内外に出荷されている。

鮮魚については、離島(頭島漁港や大多府漁港)に属する漁船も含めて、本土側にある漁港や港湾の産地市場に陸揚げを行い、産地市場でのセリ、産地直売施設での直販、岡山市内にある中央卸売市場へ運搬した後のセリ等を経て流通するルートがある。

④ 養殖業の状況

備前・瀬戸内圏域では、日生諸島や長島周辺海域等を漁場としてカキ養殖が盛んに行われており、本圏域のカキ養殖生産量・生産額は県全体の約9割を占めている(令和2

年度県調べ)。

養殖されたカキは水揚げ後、漁港や港湾にあるカキ処理施設でむき身に加工し、袋詰め等された後、県内外へ出荷される。また、日生町漁協、牛窓町漁協では県漁連加工流通センターにカキを集約して加工販売を県漁連に委託している。県下全てのカキ生産漁協で組織する岡山かき流通対策協議会では、漁協（漁業者）、漁連、県が連携して県産カキの販売促進に取り組んでいる。

⑤ 漁業経営体、漁業就業者（組合員等）の状況

圏域内の漁業就業者数は、平成30年度漁業センサスでは349人、経営体数は222経営体となっている。近年、漁業就業者数や経営体数は減少傾向であり、今後もその傾向が続くことが予想される。

⑥ 水産業の発展のための取組

本圏域では、「牛窓朝市」や「真魚市」等の朝市を開催し、水産物の直売に積極的に取り組んでいるが、特に1～2月のカキ養殖の最盛期には、各漁協や道の駅等の直売所で「ひなせかき祭」といったカキ祭りを開催し、地元の新鮮なカキをPRしている。

観光底びき網漁体験や地びき網体験に取り組んでいるほか、アマモ場でのシーカヤック体験を実施し、渚泊に繋がる取組を実施している。また、令和3年度には、頭島に「渚の交番 ひなせうみラボ」が設立され、海洋教育や漁業体験等を提供し、漁村や漁業との交流の拠点となっている。

アマモ場では、水産業への理解と関心を深めるため、地元中学校や企業、NPO等とともにアマモの種採りや種の選別、播種を実施しており、産学官民が連携したアマモ場再生活動による里海づくりの推進に取り組んでいる。

⑦ 水産基盤整備に関する課題

漁港施設の老朽化が進行し機能低下が懸念されており、継続的な機能確保と、増大する対策コストの縮減および平準化が課題である。

⑧ 将来的な漁港機能の集約化

本圏域は、本県の主要水産物であるカキの重要な生産拠点となっていることから、現状の機能を維持していく。

(2) 圏域設定の考え方			
① 圏域タイプ	養殖・採貝藻型	設定理由；カキ養殖業が圏域内の主要漁業である。	
② 圏域範囲	養殖・採貝藻型	設定理由；カキ養殖業の生産量が県下の約9割を占めている。	
③ 流通拠点漁港	—	設定理由；	
④ 生産拠点漁港	頭島 虫明	設定理由； 頭島：1種漁港であるが、圏域内で中核的な役割を担っている。災害時には漁港利用者の避難路や避難場所が確保されており避難対策は確立されている。また漁業者は今後も漁業を継続していく意向が強いことから、生産拠点に位置づけ、今後も漁港を整備、維持していく必要がある。 虫明：2種漁港であるが、圏域のカキ養殖業を支える中核的な役割を担っている。災害時には漁港利用者の避難路や避難場所が確保されており避難対策が確立されている。漁業者は今後も漁業を継続していく意向が強いことから、生産拠点に位置づけ漁港を整備・維持していく必要がある。	
⑤ 輸出拠点漁港	—	設定理由；	
(令和元年)			
圏域の属地陸揚量(トン)	5,238	圏域の登録漁船隻数(隻)	456
圏域の総漁港数	5	圏域内での輸出取扱量(トン)	—
圏域で水産物の水揚実績がある港湾数	3		

当該圏域を含む養殖生産拠点地域名	岡山県東部
対象魚種	カキ
魚種別生産量（トン）	3,181(トン)
魚種別海面養殖業産出額（百万円）	2,775(百万円)

2 圏域における水産基盤整備の基本方針

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

① 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

—

② 養殖生産拠点の形成

—

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

① 環境変化に適応した漁場生産力の強化

本圏域では、平成14年～平成25年に実施した東備地区水産環境整備事業において、魚介類の産卵場や稚仔魚の生育場となるアマモ場の造成や魚礁の設置を実施している。また、平成18年～平成27年に実施した邑久地区地域水産物供給基盤整備事業において、水路掘削を実施し漁場環境の改善を図っており、圏域として既に必要量を整備済みである、

アマモ場については、古くから漁業者が中心となり再生活動に取り組んでいることから、引き続き再生活動を支援し、藻場面積を維持していく。

② 災害リスクへの対応力強化

老朽化した漁港施設に対して、機能保全計画に基づく予防保全型の対策を行うことで、施設の長寿命化とライフサイクルコストの縮減を図る。

離島航路の安全性向上のため、関連する漁港施設において、地震・津波・波浪に対する機能診断の実施を検討する。なお、実施時期については、緊急性の高い老朽化対策の完了後とする。

(3) 「^{うみぎょう}海業」振興と多様な人材の活躍による漁村の魅力と所得の向上

① 「^{うみぎょう}海業」による漁村の活性化

平成27年度に頭島と本土を結ぶ橋梁が完成し、観光客の増加が見込めることから、地元漁業協同組合による底びき網漁体験や、民間業者によるアマモ場でのシーカヤックが実施されており、引き続き体験型観光等の推進への支援を図る。一方、集客のための情報発信が検討課題であることから、教育機関へのPR等を行い、漁村交流人口の増加を図る。

②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

漁港施設の老朽化や水位上昇等の影響により、既存の施設では就労環境や生活環境に支障が生じていることから、施設の更新、及び整備を行い漁港全体の利便性向上を図る。

3 目標達成のための具体的な施策

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

①流通拠点漁港等の生産・流通機能の強化

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
—	—	—	—	—	—

②養殖生産拠点の形成

地区名	主要対策	事業名	漁港・漁場名	種別	流通拠点
—	—	—	—	—	—

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

①環境変化に適応した漁場生産力の強化

地区名	主要対策	事業名
日生地区	藻場・干潟	水産多面的機能発揮対策事業

- ・ H14～H25 に実施した東備地区水産環境整備事業において、潜堤の設置や覆砂、消波堤の設置によってアマモ場を 8.3ha 造成している。備前市日生町のアマモ場再生活動は、昭和 60 年に開始されて以来、現在まで継続して活動しており、水産多面的機能発揮対策事業では、本造成アマモ場(8.3ha)において、引き続き漁業者や地域などとの協働による種子採取や播種等の再生活動の支援、及び年 1 回以上のモニタリングを実施し、アマモ場面積の維持を図る。

②災害リスクへの対応力強化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
穂浪	予防保全	水産基盤整備事業	穂浪	2	—

- ・ 穂浪漁港において、老朽化した道路等の漁港施設に対して、機能保全計画に基づく予防保全型の対策を行うことで、施設の長寿命化とライフサイクルコストの縮減を図る。

(3) 「^{うみぎょう}海業」振興と多様な人材の活躍による漁村の魅力と所得の向上

① 「^{うみぎょう}海業」による漁村の活性化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
穂浪	活用促進	単県事業	穂浪	2	—

- ・ 頭島と本土を結ぶ橋梁が完成し、圏域内の観光客の増加が見込めることから、老朽化した道路の修繕を実施し活用促進を図る。

②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
頭島	生活環境	漁業集落環	頭島	1	—
大多府		境整備事業	大多府	1	—

- ・ 頭島地区、大多府地区において、老朽化した集落排水施設等に対して、機能保全計画に基づく予防保全型の対策を行うことで、施設の長寿命化とライフサイクルコストの縮減を図る。

4 環境への配慮事項

本圏域は、瀬戸内海国立公園内に位置することから、特に周辺環境の保全・調和が必要となっている。事業実施にあたっては、周辺の景観や生活環境等に十分配慮することとする。

5 水産物流通圏域図

別添のとおり